

# 町コロナ対応第2弾

## 国の交付金で感染防止対策など

9月8日に八丈町で初の新型コロナウイルス陽性者が確認され、その後も13日までに7人の陽性が判明、八丈島のコロナ対応は新たな局面に入った。島民にとってコロナ感染がより身近なリスクとなった一方、10月からは「GoToトラベルキャンペーン」に東京都も加わることになり、観光事業者は期待も寄せる。感染防止対策と落ち込む島の観光や経済の再生をどのように両立させていくのか、町は国の交付金約2億円を活用したコロナ対策の第2弾を公表した。

新型コロナウイルス感染症への対応について、8月26日の町議会全員協議会で国のコロナ関連交付金を活用した八丈町の新たな支援策が示され、9月4日の町議会定例会

では関連の補正予算が可決された。予算審議や一般質問でも、町のコロナ対策が論議された。

### 初の感染者確認 陽性7人

八丈町で初めての新型コロナウイルス感染者が9月8日に確認され、これまで7人(男性2人、女性5)の陽性が判明している。このうち5人は13日までに、都の行政ヘリで島外医療機関に搬送している。

陽性者の濃厚接触者に

### 都立青鳥特別支援学校分教室 来年4月から八高内に設置

小池都知事は9月18日、都議会定例会の知事所信表明で、八丈町に特別支援学校高等部の分教室を設置する検討を進めていることを表明した。来年4月から八丈高校内に設置するもので、24日には都の教育委員会で報告された。設置は島しょ地域では初めて。

都教育庁によれば、設置されるのは世田谷の青鳥特別支援学校の分教室。知的障害を持った生徒を対象に1年生から受け入れを開始し、全学年が揃うまでの3年間はモデル事業として、八高生との交流・共同学習、卒業後の就職など進路相談を行いながら、教育活動の在り方や適切な規模などについて検討し、その効果を検証する。

開設に向けては、年内に対象となる生徒や保護者との事前相談を行い、1月に出願を受け付ける。

町教育委員会によると今年4月現在、八丈町立小中学校の知的障害特別支援学級には小学生10人、中学生9人が在籍。また、学習や集団の関わりが難しい子どもたち約30人が特別支援教室(ラーニングルーム)で授業を受けている。

### 8月来島者 前年の半分

八丈町産業観光課のまとめによる8月の来島者数は8453人で、前年同期より8562人減少(対前年比49.7%)。航路別では、飛行機が6968人(同53.2%)、船

は1485人(同37.8%)。1月から8月までの累計来島者数は3万7947人で、前年より4万6403人減(同45%)と5割を切った。

### 観光復興対策

#### 割引クーポン 1億円 貸し切りバス 8割補助

3月以降落ち込んでいた観光復興対策では新たな観光復興対策では新たな観光復興対策では新たな

町が新たに打ち出した支援策が、感染予防・防止対策(2事業)と、落ち込んだ島の観光を回復させるための観光復興対策

の大きな柱の一つが町の水道料金免除の期間延長で、8~10月検針分まで3カ月間拡大する(予算額約6千万円)。

町が新たに打ち出した支援策が、感染予防・防止対策(2事業)と、落ち込んだ島の観光を回復させるための観光復興対策

3月以降落ち込んでいた観光復興対策では新たな観光復興対策では新たな

1事業所に10万円

感染予防対策事業費補助金(同3500万円)

は、東京都の感染防止徹底宣言ステッカーを掲示し、感染防止対策を実施している店舗などに対し

て、1事業所当たり10万円を補助する。

感染症予防対策支援補助金(予算額1050万円)は、国や都の補助事業で感染防止対策を行っている事業者に対して、自己負担分の75%(補助額上限あり)を支援する。

し切りバスの使用料補助を、さらに5割上乘せして8割補助に。

町企業課によると4月以降は町営貸し切りバスの需要はほとんどなくなった。秋以降も旅行会社からの予約はあるが、催行人数が確保できず、ツアーが成立するかはわからない。

ただ、10月から東京都も加わる「GoToトラベルキャンペーン」への期待もあり、少しでも旅行エージェンツの負担を減らして、ツアーの活性化をめざす。予算は1200万円。

また、春先からほとんど中止となっていた島外団体のスポーツ合宿も、390万円の予算で再開を支援する。

3つのメニューは年度内に着手すれば、22年3月末まで延長可能。

### 水道料金免除延長

今回の交付金の額は1億9704万円。追加支援

からの交付金の額は1億9704万円。追加支援